

資料渉猟余話

その136

郷土において折口し、文庫化したもの
信夫は、新野や雪ま である。中央公論社
つりとの関係で語ら 版『折口信夫全集
れることが多い。し 別巻I 折口信夫講
かし、ここではそれ 義(一九九九年刊)
らについては触れ を底本としている。
ず、下伊那教育会と 驚くことに、右文
の関わりで述べるこ 庫本中の両項目の最
とにする。 初に小さく次のよう

昨年、中央公論新 社から写真の文庫本
『古事記の研究』折 口信夫著)が初版出
版された。本書は、 著者の講演録「古事
記の研究」と「万葉 人の生活」を一冊に

年九月十一日、 下伊那郡教育会講演
筆記」とある。 これらの事実を前
述の『下伊那教育会
史 百周年記念』所 載の「各支会の講
習、講演会」・『折
二日間、下伊那教育

た。すると、講演の 期日や演題に微妙な
相違はあるものの、 総合すると概ね以下
のようになる。 ます折口は、昭和
九年九月七・八日の
下伊那教育会
で、旧会地小学校に
おいて「万葉人の生
活」と題する講演を
行った。

折口信夫と下伊那教育会

一冊の文庫本に寄せて

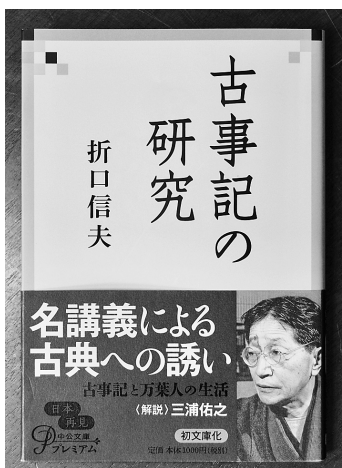
鎌倉 貞男

口信夫全集』所載の 会第七支会(竜峽支
「信州講演目録」・ 会)の招聘で竜丘小
『折口信夫と信濃』 学校において「古事
(今井武志著 昭和 記の研究」と題する
四十八年 信濃毎日 講演を行った。次
新聞社刊)所載の に、中一日おいて同
「折口信夫信濃年 月十・十一日の両
譜」等で確かめてみ 日、同会第三支会

(阿智支会)の依頼 期日や演題に微妙な
相違はあるものの、 総合すると概ね以下
のようになる。 ます折口は、昭和
九年九月七・八日の
下伊那教育会
で、旧会地小学校に
おいて「万葉人の生
活」と題する講演を
行った。

付言すれば、翌昭 和十年七月十二・十
三日の両日、折口は 竜丘小学校において
再び「古事記の研 究」と題する講演を
行った。前年の続講 である。この時の講
演記録が文庫本中の 「古事記の研究
二」である。 右文庫本の帯封
に、解説者三浦佑之

くもまあ当時の下伊 那教育会の先生方
は、長時間の講演を 筆記したものであ
る。それも録音機器 が無かった時代だけ
に、さぞ苦労したに 違いない。それらの
記録は後に折口の校 閲も経たであろう
が、音声を文字化す るまでの努力と時間
を考えると誠に敬服 脱帽の他ない。
こうしてみると、 右の文庫本『古事記
の研究』の編纂と出 版に、下伊那教育会
の先生方が少なから ぬ貢献をしているこ
とになる。(故人敬称略)



に、解説者三浦佑之 だと思われる。 それにしても、よ